

6月

ほけんだより

◆明るいほうを見る◆

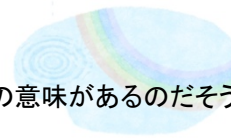
子連れの梅雨ほど大変な季節が他にあるでしょうか。傘をさして子どもと手をつないだら、もう空いている手がありません。降りだした雨に、大人は思わずため息がでます。そんな時、子どもはどうでしょうか。

あらゆる体験のすべてを五感で確認し、それらを全部、まるごと脳の神経細胞に吸収しながら生きている、いやながの子どもたち。その瞳に、この雨はどう映っているのでしょうか。自然の草花や生き物、農作物にとっては恵みの雨。私たち人間にとっても、生命を支える大切な「いのちの水」です。

“No Rain, No Rainbow”

ハワイのことわざ

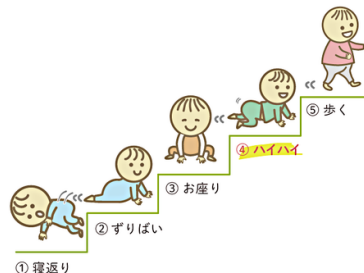
直訳は、「雨なくして、虹なし」。ハワイでは二つの意味があるのだそうです。



◆空白の1年をとりもどす◆

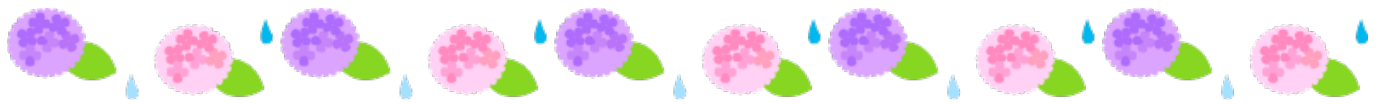
1年前、私たちはそれぞれの立場で慎重に「新しい生活様式」への一歩を踏み出しました。行動が制限され、大きな声は出せず、子どもを外で自由に遊ばせることもままならない中で、大きなお腹を抱えていた、幼い子どもを連れていた、保護者の皆さんはいったいどんな風に妊娠・出産や子育ての日々をしのいでいたでしょう。今年は各ご家庭で、本来あるべき子どもとの暮らしに近づけていきましょう。去年我慢した分まで、いっぱい体をつかっていきましょう。少しでも多く・長く歩く経験を重ねれば、子どもは見違えるほど頼もしく成長します。ひとりで歩けるまでの過程では、ハイハイが特に重要です。すでに歩ける子もハイハイの動きを積極的に取り入れて遊びましょう。ハイハイをどれだけ経験したかで、その後の人生が変わります。

一つ一つ、じゅうぶん経験をしてから次に進むことが大切です



赤ちゃんの発達発達「ハイハイと色々な姿勢」についてのレポートを、いやなが保育園ホームページのブログ「オレンジパフェ」に掲載しました。保護者や地域の皆さんも、ぜひご参考にどうぞ。





◆ふれあう・あそぶ・わらう◆

近年の子どもたちは、生きるために必要な一部の機能がちゃんと目覚めていないと言われます。去年から今年は「ステイホーム」「新しい生活様式」の影響も少なからずあると思います。そこで…今月のレッツ・トライ！

『肌で触れ合う・全身であそぶ・笑いあう』



毎日心がけて生活すると、お腹がすいてご飯が美味しく、お風呂も気持ち良くて、ぐっすり眠れます。目指すのは「**免疫機能と自律神経のスイッチに関わる遺伝子を刺激する**」こと。経験により獲得する体の機能には、一部タイムリミットがあります（臨界期・敏感期）。一人一人が持って生まれた種から、まず芽が出ますように。

◆肌荒れ・虫刺され・とびひ・水いぼ◆



初夏の日差し・梅雨の蒸し暑さにじっとり汗ばむ季節です。清潔と適度な保湿で肌のバリア機能を高めましょう。サッとシャワーで流すのも良いですし、濡れタオルで拭くのも大丈夫です。赤ちゃんにとって初めての夏は、多少あせもができてしまっても汗を出す経験をして汗腺を開き、ちゃんと自力で体温調節が出来るよう育ててあげたいものです。季節柄、虫も増えてきました。ダニ対策は、布団・シーツカバー類・ソファ等、のそうじ機掛けを習慣にしましょう。丸洗いはさらに効果的です。もし、湿疹や虫刺されあとを掻きこわしてしまい血液や浸出液がにじむときは、剥がれないようにガーゼや絆創膏で覆ってから登園してください。衣服で隠れない部分の水いぼは、感染防止のため、すべて絆創膏などで覆ってくださいますようお願いいたします。



◆おわりに◆

雨上がりの空にかかる虹を見たことがありますか？ 雨のしずくが葉っぱの先でキラキラ光るのはどうでしょう？ 今日の子どもの心は梅雨の季節を、どう「感じている」・「感じていない」でしょうか。人は「快」だけでなく「不快」もあることで、違いとして認識できます。両側の感覚を刺激する体験を重ね、移りゆく日本の四季の美しさを、全身で感じ取ることのできる感性を育ててあげたいですね。

